

# 令和 2 年度 学校評価アンケート結果分析

時期：中間 9 月 年度末 12 月

対象：児童 483 名 回答 477 名 回答率 98%

保護者 483 名 回答 438 名 回答率 90%

教員 24 名 回答 24 名 回答率 100%

形式：質問紙調査による調査（4 件法）

項目：「学習」「生活」「仲間・健康」「学校」の 4 項目



令和 3 年 3 月

生駒市立俵口小学校

# 1～2年 子どもアンケート

じぶんのことを おもいだして、こたえましょう。あてはまる ばんごうに ○をつけましょう。

	おもいだすこと	そうおも う	だいたい そうおも う	あまりそ うおもわ ない	そうおも わない
が く し ゅ う	1-① あさのがくしゅうを がんばった。	4	3	2	1
	1-② かていがくしゅうとして、1ねんせい は20ぶんかん、2ねんせいは30ぶん かん、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③ じぶんの かんがえたことを、ノート やプリントに かくことができた。	4	3	2	1
	1-④ がくしゅうしたないようが、どんな ないようだったか わかった。	4	3	2	1
	1-⑤ じぶんのかんがえを、クラスのともし だちに わかりやすく はなすことがで きた。	4	3	2	1
せ い か つ	2-① がっこうせいかつの きまりや こう つうルール、ともだちとの やくそく をまもった。	4	3	2	1
	2-② がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに ていねいなことばを つけた。	4	3	2	1
	2-③ ふれあいタイムで ちがうがくねんの ひとと きょうりょくすることができ た。	4	3	2	1
	2-④ 年下(としました)の子(こ)をだいに し、年下(としました)の子(こ)から し たわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤ ろうかを ただしくあるいた。	4	3	2	1
	2-⑥ がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに きもちのよいあいさつ をした。	4	3	2	1
	2-⑦ おしゃべりをせずに、しっかりと そ うじをした。	4	3	2	1

なまえ ( )

な か ま ・ け ん こ う	3-①	がっきゅうかいで よくかんがえて じぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-②	ひとのいけんを よくきいてから、じ ぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよ くあそぶには どうしたらよいかを かんがえてこうどうできた。	4	3	2	1
	3-④	きもちよく がっこうせいかつをおくるた めには どうしたらよいかをかんがえて、 いいんかいかつどうを おこなった。				
	3-⑤	たいいくのじかんには、しっかりとか らだをうごかして うんどうした。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、たのしみながら からだをうごかした。	4	3	2	1
	3-⑦	やすみじかんには、そとにでてあそん だり からだをうごかしたりした。	4	3	2	1
が っ こ う	4-①	がっこうはたのしい。	4	3	2	1
	4-②	じぶんは ひとのやくに たっている とおもう。	4	3	2	1
	4-③	あいてのきもちを かんがえて こう どうしている。	4	3	2	1
	4-④	ちゅういされたときは すなおに は なしをきくことができる。	4	3	2	1
		 こまったことがあれば かきましよう。				

# 3～4年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまるばんごうに○をつけましょう。

	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	
学 習	1-①	朝の学習をがんばった。	4	3	2	1
	1-②	かてい学習として、3年生は40分間、4年生は50分間、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③	自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④	学習した内ようが、どんな内ようだったか分かった。	4	3	2	1
	1-⑤	自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた。	4	3	2	1
生 か つ	2-①	学校生かつのきまりや交通ルール、友だちとのやくそくをまもった。	4	3	2	1
	2-②	学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいなことばを使った。	4	3	2	1
	2-③	ふれあいタイムで、ちがう学年の人ときょう力することができた。	4	3	2	1
	2-④	年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤	ろうかを正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥	学校の先生、友だち、近所の人に、気もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦	おしゃべりをせずに、しっかりとそうじをした。	4	3	2	1

なまえ ( )

なかま・けんこう	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよくきいてから、自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよくあそぶには、どうしたらよいかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。				
	3-⑤	体いくの時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出てあそんだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、すなおに話をきくことができる。	4	3	2	1
	 こまったことがあれば かきましよう。					

# 5～6年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

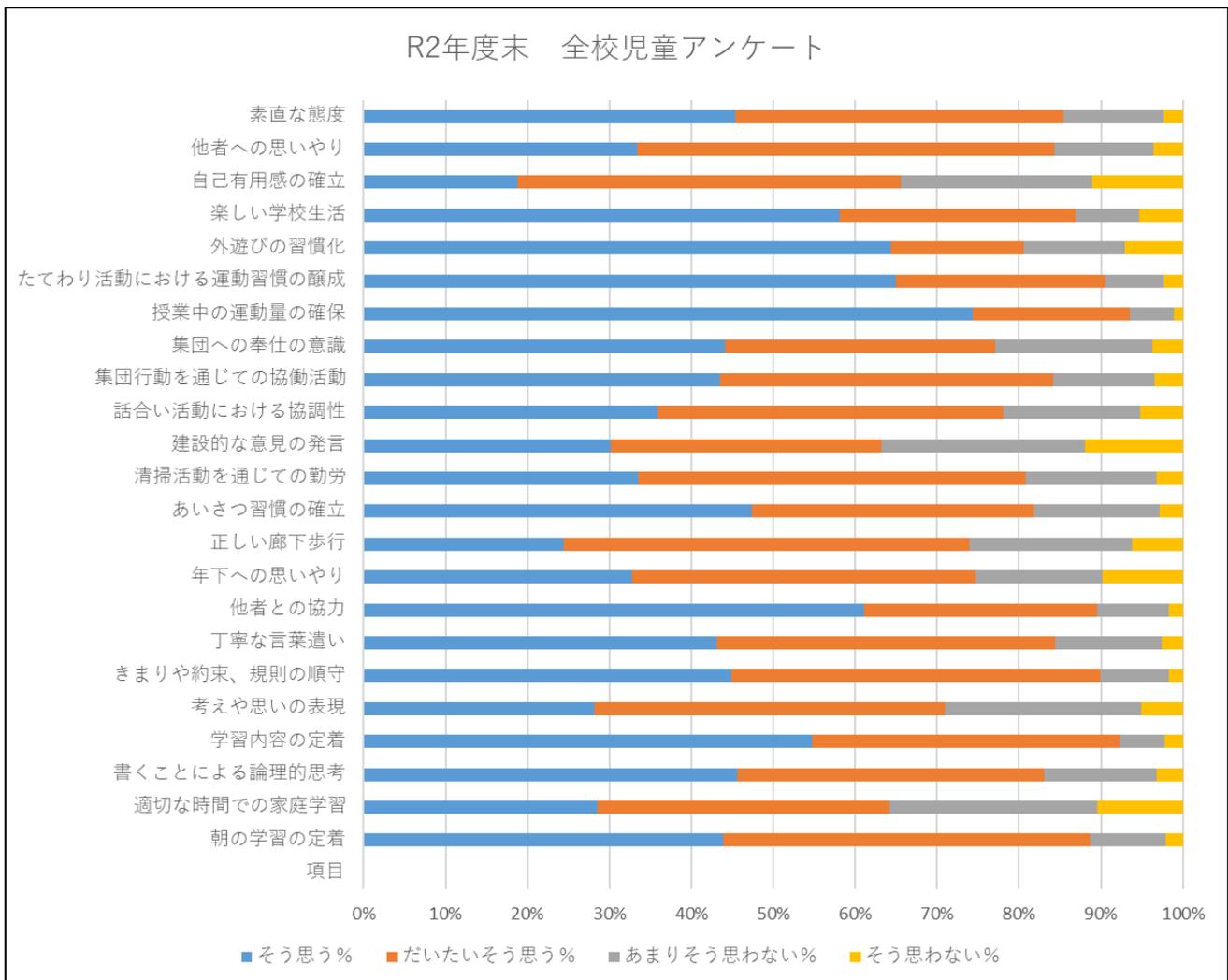
	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	
学 習	1-①	朝の学習をがんばった。	4	3	2	1
	1-②	家庭学習として、5年生は60分間、6年生は70分間、勉強することができた。	4	3	2	1
	1-③	自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④	学習した内容が、どんな内ようだったか分かった。	4	3	2	1
	1-⑤	自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた。	4	3	2	1
生 活	2-①	学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守った。	4	3	2	1
	2-②	学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいな言葉を使った。	4	3	2	1
	2-③	ふれあいタイムで、ちがう学年の人と協力することができた。	4	3	2	1
	2-④	年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤	廊下を正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥	学校の先生、友だち、近所の人に、気もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦	おしゃべりをせずに、しっかりとそうじをした。	4	3	2	1

なまえ ( )

仲間・健康	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよく聞いてから、自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなで仲よく遊ぶには、どうしたら良いかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。	4	3	2	1
	3-⑤	体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出て遊んだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、素直に話を聞くことができる。	4	3	2	1
	 困ったことがあれば 書きましょう。					

## R2年度末 全校児童アンケート

全校児童			そう思う%	だいたいそ う思う%	あまりそ う思わない%	そう思わ ない%
分類	番号	項目				
学 習	1-①	朝の学習の定着	44	45	9	2
	1-②	適切な時間での家庭学習	28	36	25	10
	1-③	書くことによる論理的思考	46	37	14	3
	1-④	学習内容の定着	55	38	6	2
	1-⑤	考えや思いの表現	28	43	24	5
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守	45	45	8	2
	2-②	丁寧な言葉遣い	43	41	13	3
	2-③	他者との協力	61	28	9	2
	2-④	年下への思いやり	33	42	15	10
	2-⑤	正しい廊下歩行	24	50	20	6
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	47	34	15	3
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	34	47	16	3
仲 間 ・ 健 康	3-①	建設的な意見の発言	30	33	25	12
	3-②	話し合い活動における協調性	36	42	17	5
	3-③	集団行動を通じての協働活動	43	41	12	3
	3-④	集団への奉仕の意識	44	33	19	4
	3-⑤	授業中の運動量の確保	74	19	5	1
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	65	26	7	2
	3-⑦	外遊びの習慣化	64	16	12	7
学 校	4-①	楽しい学校生活	58	29	8	5
	4-②	自己有用感の確立	19	47	23	11
	4-③	他者への思いやり	33	51	12	4
	4-④	素直な態度	45	40	12	2



## 児童アンケートの考察

・中間期と同様に、1年は肯定的意見の割合が高い項目が多く、6年では否定的意見の割合が高い項目が多い。しかし、肯定的意見の割合を中間期と比較してみると、20項目中13項目で改善が見られ、そのうち2項目は10ポイント以上の大幅な改善であった。各学年の肯定的意見の割合の経過比較を見てみると、中間期に比べて改善が図られた項目が増えていた。

・今回のアンケートで児童の肯定的意見が高い割合だった項目は、「学習内容の定着」「きまりや約束、規則の順守」「他者との協力」「授業中の運動量の確保」「たてわり活動における運動習慣の醸成」の5つで、いずれも90%以上の児童が肯定的な評価をしていた。中間期と同様に『学校生活のきまり』や『交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ』を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させる。「体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図る。」については、目標を達成したといえる。また、「学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の

### R2年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較

全校児童			肯定意見 年度末(%)	肯定意見 中間(%)	否定意見 年度末(%)	否定意見 中間(%)
分類	番号	項目				
学 習	1-①	朝の学習の定着	89	88	11	12
	1-②	適切な時間での家庭学習	64	70	36	30
	1-③	書くことによる論理的思考	83	72	17	28
	1-④	学習内容の定着	92	89	8	11
	1-⑤	考えや思いの表現	71	64	29	36
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守	90	91	10	9
	2-②	丁寧な言葉遣い	84	84	16	16
	2-③	他者との協力	90		10	
	2-④	年下への思いやり	75	65	25	35
	2-⑤	正しい廊下歩行	74	75	26	25
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	82	83	18	17
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	81	81	19	19
仲 間 ・ 健 康	3-①	建設的な意見の発言	63	59	37	41
	3-②	話し合い活動における協調性	78	76	22	24
	3-③	集団行動を通じての協働活動	84		16	
	3-④	集団への奉仕の意識	77	73	23	27
	3-⑤	授業中の運動量の確保	94	92	6	8
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	91		9	
	3-⑦	外遊びの習慣化	81	70	19	30
学 校	4-①	楽しい学校生活	87	82	13	18
	4-②	自己有用感の確立	66	64	34	36
	4-③	他者への思いやり	84	80	16	20
	4-④	素直な態度	85	85	15	15

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）

改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）

改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降）

肯定的意見の割合が90～100

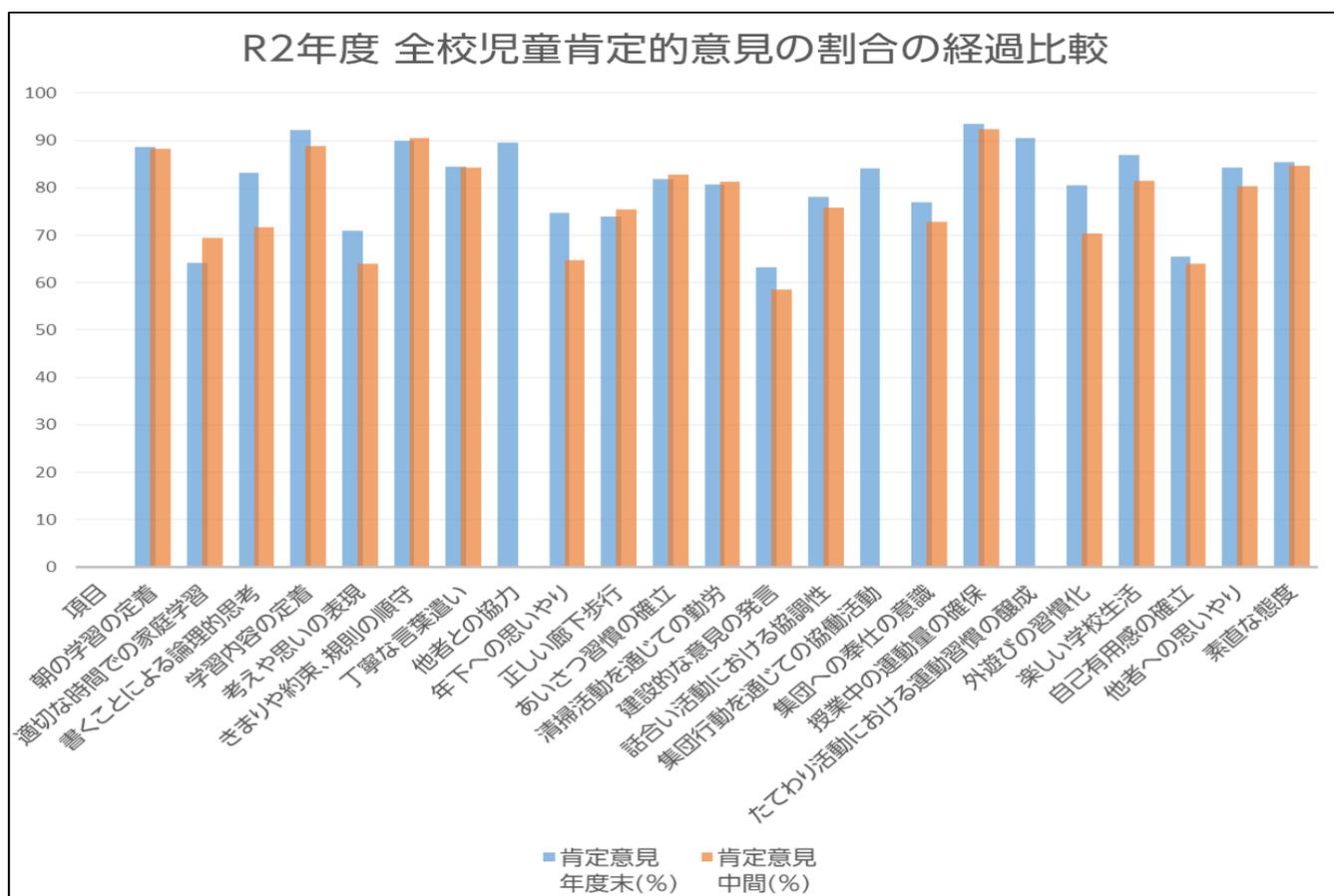
肯定的意見の割合が80以上

否定的意見の割合が30以上

否定的意見の割合が20～30

振り返りを設定することで、児童に学習内容を理解させる。「たてわり活動で児童が協力して活動できるように指導する」「たてわり活動を通じて児童らの体力向上を図ることができる」についても、目標を達成することができたといえる。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習」「建設的な意見の発言」「自己有用感の確立」の3項目であった。中間期には「考えや思いの表現」「年下への思いやり」「外遊びの習慣化」の3項目も否定的意見が高い割合の項目として挙がっていたが、後半期の教育活動において改善が図られたため、今回のアンケートでは挙がってこなかった。「建設的な意見の発言」「自己有用感の確立」の2つの項目については、中間期と比較すると若干の改善が見られる。しかし、いずれも肯定的意見の割合が60%台であり、今後も継続して改善を図っていかねばならないと考える。引き続き、日々の授業や学級会をはじめとした特別活動、委員会活動やクラブ活動、たてわり活動など様々な教育活動において、児童の思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた教育活動を実践する必要があるという点を意識して教育活動に取り組み、建設的な意見を発言し他者と協働できるような児童を育成していきたい。「自己有用感の確立」の項目については、中間期と比べて6年で大幅に改善が見られたものの、全体的に否定的意見の割合が高い。今後の教育活動において、スモールステップで目標設定をさせることや、学級活動において係活動や掃除当番などの当番活動を確実に実行させ、達成感を味わわせることなどを通じて、改善を図っていきたい。また、「適切な時間での家庭学習」については、中間期においても否定的意見の割合が30%と高い割合を示していたが、今回のアンケートではさらに6ポイント下降し、否定的意見の割合が36%となった。家庭学習の習慣化は、児童が学びに向かう姿勢を身につける上で必要不可欠である。このことを踏まえた上で、学校だよりや学年だより等で家庭へ啓発を続けてきたが、なかなか結果していないことが明らかとなった。今年度は、コロナ禍の影響で学級懇談会が開催できずに保護者と直接話す機会がなかったため、思いが伝わりにくかった面もあると思うが、学びに向かう力は、新学習指導要領でも身につけるべき学力の一つとされているものであり、粘り強く啓発を続けていかねばならないと考える。



# 児童アンケート各項目の考察

分類	番号	項目	肯定的意見(%)						否定的意見(%)					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学習	1-①	朝の学習の定着	97	88	83	87	93	84	3	13	17	13	7	16
	1-②	適切な時間での家庭学習	91	73	68	68	65	56	9	27	32	32	35	44
	1-③	書くことによる論理的思考	57	80	72	74	79	69	43	20	28	26	21	31
	1-④	学習内容の定着	95	77	88	89	94	89	5	23	12	11	6	11
	1-⑤	考えや思いの表現	82	61	71	56	67	51	18	39	29	44	33	49
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	95	88	84	94	99	86	5	13	16	6	1	14
	2-②	丁寧な言葉遣い	88	83	78	84	97	79	12	17	22	16	3	21
	2-④	年下への思いやり	54	70	65	61	79	62	46	30	35	39	21	38
	2-⑤	正しい廊下歩行	91	70	77	63	83	71	9	30	23	37	17	29
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	93	84	88	81	83	70	7	16	12	19	17	30
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	90	84	82	82	89	65	10	16	18	18	11	35
	2-⑧	掃除活動を通じての勤労	90	84	82	82	89	65	10	16	18	18	11	35
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言	81	56	56	54	67	43	19	44	44	46	33	57
	3-②	話し合い活動における協調性	92	81	72	70	89	58	8	19	28	30	11	42
	3-④	集団への奉仕の意識					89	60					11	40
	3-⑤	授業中の運動量の確保	97	95	89	97	93	85	3	5	11	3	7	15
	3-⑦	外遊びの習慣化	93	86	79	66	68	40	7	14	21	34	32	60
学校	4-①	楽しい学校生活	86	81	88	86	85	65	14	19	12	14	15	35
	4-②	自己有用感の確立	85	77	62	60	65	43	15	23	38	40	35	57
	4-③	他者への思いやり	92	75	74	81	88	75	8	25	26	19	13	25
	4-④	素直な態度	91	84	87	76	90	82	9	16	13	24	10	18

改善が必要な項目  
肯定的意見の割合が90~100

改善が必要でない項目  
肯定的意見の割合が80~90

否定的意見の割合が30以上  
否定的意見の割合が20~30

## 学習

### 【1-①朝の学習の定着】

・朝の学習は、中間期に比べ1ポイント上昇した。4学年で改善傾向が見られ、特に2年では10ポイントの上昇が見られた。朝の学習で、漢字練習や計算練習などの基礎学力の定着を図ることは勿論のこと、1日の学習を始める前に学びに向かう姿勢を整える意味でも、今後も継続していきたい。

### 【1-②適切な時間での家庭学習】

・適切な時間での家庭学習は、中間期に比べて6ポイント下降した。6学年全部で肯定意見が減少し、特に中学年は9ポイント下降している。いうまでもなく家庭学習の習慣を身に付けることは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、その点を保護者にも理解してもらう必要がある。中間期の児童アンケートの結果を踏まえ、学校だよりでこの点について啓発してきたが、結果に結びついていないことが分かった。今後、児童への指導を強化するとともに、学校だよりだけではなく学年だよりや懇談会等、あらゆる場面を活用して保護者への啓発を続けて協力を仰いでいきたい。

### 【1-③書くことによる論理的思考】

・書くことによる論理的思考は、中間期に比べて11ポイントの上昇が見られた。6学年すべてで肯定意見の上昇が見られ、そのうち3学年で10ポイント以上の上昇が見られた。特に1年で大幅な改善が見られ、文字の学習が進むにつれて「書く活動」を取り入れた教育活動が推進された結果であると思われる。今年度、本校は考える道徳の実現に向けて「書く活動」を授業展開に取り入れてきたが、今後も、「書く活動」を授業中に取り入れることで、論理的思考を授業で具現し、思考力・判断力の育成を図っていきたい。

### 【1-④学習内容の定着】

・学習内容の定着は、中間期に比べて3ポイント上昇し、4学年で肯定意見の上昇が見られた。特に2年では10ポイント以上の上昇が見られ、大幅な改善が図られた。全校の肯定意見が92%を占め、今年度の学習活動において達成されたと考える。しかしながら、今後は、この結果に甘んずることなく、学習内容

の更なる定着を目指して教育活動を充実させ、児童が自信を持って進級・進学できるようにしていきたい。

#### 【1-⑤考えや思いの表現】

・考えや思いの表現は、中間期に比べて、7ポイントの上昇が見られた。6学年すべてで肯定意見の割合が増え、そのうち2年と4年では10ポイント以上の上昇が見られた。後半のあらゆる教育活動において、考えや思いを表出する場の設定を行ってきたことが結果に結びついたと考える。また、自身を安心して表出できるように学級環境を整えてきたことも、結果に結びついていると思われる。ただ、全体的には肯定意見の割合が71パーセントであり、まだまだ改善が必要な項目であるといえる。次年度に向けてますます改善を図っていきたい。

### 生活

#### 【2-①きまりや約束、規則の順守】

・きまりや約束、規則の遵守は、中間期に比べて1ポイント下降した。3年では改善が見られたものの、1、2、4年で若干、肯定意見の割合が減少していた。しかしながら、全校の肯定意見が90%であり、今年度の学習活動において達成されたと考える。規範意識の醸成は、奈良県が抱える教育的課題の一つであり、本校の教育活動においても、家庭や地域との連携も含め、引き続き注力していきたいと考える。

#### 【2-②丁寧な言葉遣い】

・丁寧な言葉遣いは、中間期と比べて横ばいであった。学年別にみると、1、3、6年で肯定意見の割合が増加し、2、4、5年で肯定意見の割合が減少していた。肯定意見が8割に達していない学年もあった。時と場に応じた言葉遣いを身につけることは、社会性を身につけることにもつながるので、次年度も継続して課題解決を図っていきたい。

#### 【2-③他者との協力】

・他者との協力は、全校の肯定意見が90%を占め、今年度の学習活動において達成されたと考える。中間期はたてわり活動を実施していなかったためこの項目については評価していなかったが、後半の教育活動において、どの学年の児童もたてわり活動で異学年児童と協力して交流ができていたようである。コンゴもたてわり活動を通じて異学年交流を継続し、児童に他者と協力する経験を積ませていきたい。

#### 【2-④年下への思いやり】

・年下への思いやりは、中間期に比べて10ポイント上昇して大幅な改善が見られた。すべての学年において肯定意見の割合が増加し、1、4年で10ポイント以上の大幅な改善が見られた。後半期の教育活動において、たてわり活動で異学年交流を行ってきたことも、結果に結びついたと思われる。しかしながら、全校の結果は肯定意見が75%であり、まだまだ改善の必要があるといわざるを得ない。他者、特に立場の弱い者への共感を、たてわり活動の継続も含め、人権教育や道徳教育など、全ての教育活動を通じて児童に涵養していきたいと考える。

#### 【2-⑤正しい廊下歩行】

・正しい廊下歩行は、中間期に比べて1ポイント下降した。生徒指導部を中心に、正しい廊下歩行を生活目標の重点に据えて後半の教育活動を行ってきたが、3、6年で若干の改善が見られたものの、1、5年で

肯定意見の割合の減少が見られるなど、なかなか改善には至らなかった。1年の肯定意見の割合の減少という結果は、中間期に比べて1年児童が学校に慣れきたことも原因の一つだと思われるが、学校安全の点からも規範意識の醸成の点からも次年度も改善を図っていかなければならない項目であると考え

### 【2-⑥あいさつ習慣の確立】

・あいさつ習慣の確立は、中間期に比べて1ポイント下降のほぼ横ばいであった。多くの児童が挨拶はできていると感じているものの、自ら進んであいさつができる児童は少なく、今後は、自ら進んであいさつができる児童の育成をしていく必要があると思われる。

### 【2-⑦清掃活動を通じての勤労】

・清掃活動を通じての勤労は、中間期と比べて横ばいであった。2、3、4年において若干の改善が見られたが、全校として大幅な改善には至らなかった。本アンケートを実施後に、おしゃべりをせずにしっかりと掃除をする黙々清掃の取組強化を生徒指導部が提案し、教職員が交代で清掃活動の見守りを始めた。次年度に向け、取組強化を継続して改善を図っていききたい。

## 仲間・健康

### 【3-①建設的な意見の発言】

・建設的な意見の発言は、中間期と比べて全校では4ポイント上昇した。2、3、4年では10ポイント以上の大幅な上昇がみられた。しかし、1年では8ポイント、5年では7ポイント、6年では5ポイント下降していた。特に高学年児童は、学級会等において発言することに課題があることが明らかになった。児童が、自身を安心して表出できるような学級づくりを進めつつ、発言することが苦手な児童がいることも考慮して、タブレットを活用して意見を述べさせるなど意見交流の方法も工夫していく必要があると思われる。

### 【3-②話し合い活動における協調性】

・話し合い活動における協調性は、中間期に比べて2ポイント上昇した。6年では10ポイント以上の大幅な上昇が見られた。2、3、4年でも中間期に比べて改善が見られた。話し合い活動においては、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることが必要であるが、それ以上に相手の話をしっかりと聞いて状況を正しく理解・判断することが大切である。しっかりと相手の話を聞くということは、思考力・判断力の育成にも関わることであり、今後の教育活動においてもその点に注意して指導を継続していききたい。

### 【3-③集団行動を通じての協働活動】

・集団行動を通じての協働活動は、全校の肯定意見が84%を占め、今年度の教育活動においてほぼ達成されたと考える。中間期はたてわり活動を実施していなかったためこの項目については評価していなかったが、2年以外の学年では肯定意見が8割を超えており、多くの児童がたてわり活動で異学年と交流することを通じて協働することの意義を感じ取ることができていたようである。特に、高学年は肯定意見の割合が高く、たてわり活動を通じて下級生への接し方を考え実行している様子が窺え、活動を通じて高学年としての自覚も生まれているのではないかと推察される。

### 【3-④集団への奉仕の意識】

・委員会活動等によって育まれる集団への奉仕の意識は、中間期に比べて、4ポイント上昇した。5年は中間期と変化が見られなかったが、6年では8ポイント上昇して改善が見られた。中間期のアンケートで自己有用感の低さが浮き彫りとなり、その改善のために委員会活動等で達成感や自己有用感を味わわせることを目指したが、指導する教員からの働きかけ等により一定の効果が認められたと思われる。今後、継続して取り組み、更なる改善を目指していきたい。

### 【3-⑤授業中の運動量の確保】

・授業中の運動量の確保は、中間期も高い達成率であったが、さらに2ポイント上昇してより改善が見られた。今後も、体育の時間にしっかりと体を動かすように指導を継続し、児童の体力向上を図っていききたい。

### 【3-⑥たてわり活動における運動習慣の醸成授業中の運動量の確保】

・たてわり活動における運動習慣の醸成は、全校の肯定意見が91%を占め、今年度の教育活動において達成できたと考える。今年度前期の教育活動では、コロナ禍の影響で縦割り活動を自粛せざるを得なかったが、活動を再開してからは、6年生を中心に楽しみながらしっかりと体を動かして活動ができたようである。たてわり活動は児童に運動習慣を醸成するのに効果があるだけでなく、異学年と接することで自分と立場の違う者のことを慮るという経験もできる。今後も、感染対策に十分に注意を払って、活動を継続していきたい。

### 【3-⑦外遊びの習慣化】

・外遊びの習慣化は、中間期と比べて全校で11ポイント上昇し大幅な改善が見られた。肯定意見が全校で81パーセント占め、今年度の教育活動においてほぼ達成されたと考える。特に3、4、6年では10ポイント以上上昇し、大幅な改善が見られた。中間期での結果を踏まえ、学級や学年で外遊びを働きかけるなどしてきた結果であると思われる。今後も、体力向上の観点からも、外遊びによって適度に体を動かすことで気持ちを切り替えてその後の学習に集中して取り組むという点からも、さらなる外遊びの習慣化を図っていききたい。

## 学校

### 【4-①楽しい学校生活】

・楽しい学校生活は、中間期と比べて全校で5ポイント上昇した。2年が1ポイント下降したが、それ以外の学年はすべて上昇し、特に6年では11ポイント上昇という大幅な改善が見られた。後半期の教育活動において、縮小はしたものの運動会が実施され、最高学年として応援団をはじめとする係活動で自己有用感が育めたことや、例年と行き先を変更しての実施ではあったものの小学校生活で一番の思い出となる修学旅行が実施できたこと、たてわり活動で班のリーダーとしてメンバーを牽引する活動ができたことなど、様々な要因が結果につながったと思われる。本項目は全校の肯定意見が87%を占め、今年度の教育活動においてほぼ達成できたと考える。今後、さらなる改善を目指し教育活動に邁進していきたい。

#### 【4-②自己有用感の確立】

・自己有用感の確立は、中間期と比べて2ポイント上昇した。1、2、5年では下降が見られたが、3、4、6年では上昇が見られた。特に6年は10ポイント上昇し、大幅な改善が見られた。委員会活動やたてわり活動などの場面で教員からの働きかけ等により、児童に自己有用感を感じさせることができたと思われる。しかし、中間期と比べて改善が見られたとはいうものの、全校の肯定意見が66%であり、まだまだ改善が必要である。次年度への継続課題としたい。

#### 【4-③他者への思いやり】

・他者への思いやりは、中間期と比べて全校で4ポイント上昇した。1年以外では改善が見られ、3年は10ポイント以上上昇という大幅な改善が見られた。年少者への思いやりも含めて他者への思いやりを育むために、道徳や学級活動においてはもちろんであるが、それ以外のあらゆる機会を捉えて指導を続けてきた結果だと思われる。本項目については全校の肯定意見が84%であり、今年度の教育活動においてほぼ達成できたと考える。

#### 【4-④素直な態度】

・素直な態度は中間期と比べて横ばいであった。全校の肯定意見が85%であり、今年度の教育活動においてほぼ達成できたと考える。ほとんどの学年で肯定意見の割合が高いが、2年は中間期に比べて5ポイント下降しており、注意が必要であると思われる。今年度の残りの教育活動において改善を図っていききたい。

## R2年度学校評価 自己評価

名前 ( )

評価指数

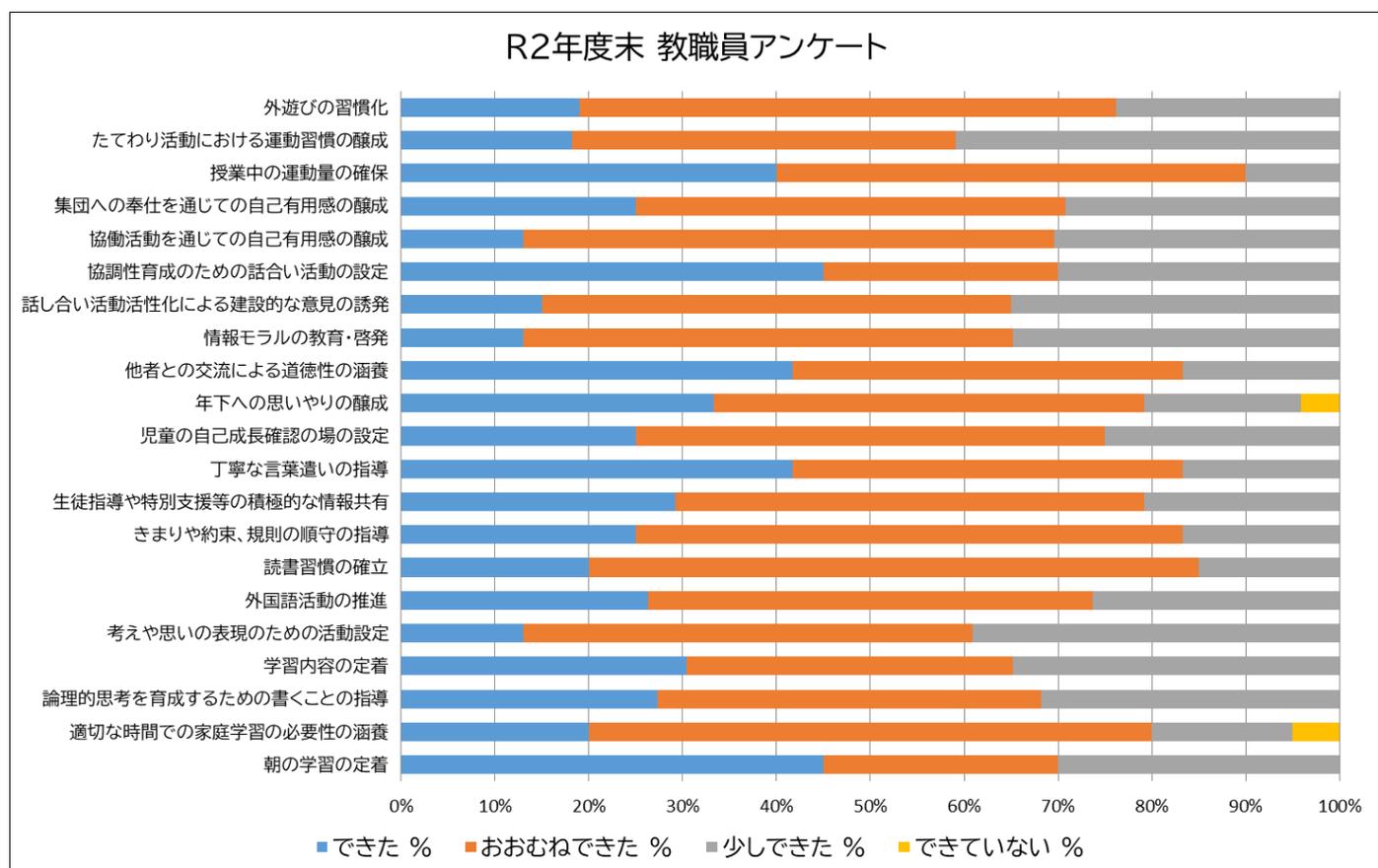
4) できた    3) 概ねできた    2) 少しできた    1) できていない

重点目標・重点課題			達成目標・評価指数	評価
県	生駒市	本校		
知： 確かな学力の育成	1. 問題解決に向けた、主体的・対話的で深い学びの実現 2. グローバル時代に対応した英語教育の推進 7. 読書活動の充実	考えをみがく	①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため指導法の工夫に取り組む	基礎学力の定着を図るために、朝学習において児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた 「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた
			②他者との交流しながら、考えを深める力を着実に育てる	「考える道徳」「議論する道徳」を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた 考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた
			③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める	学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた
			外国語や外国文化に興味関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとろうとする態度を養う	主指導者としてALTなどと協力し、体験的な活動を通して児童に外国語や外国文化に興味関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとるように指導することができた
		読書活動の充実を図り、読書習慣を育む	学校図書館を活用することで、児童に読書への興味関心を持たせ、家庭でも読書する習慣を身に付けさせた	
徳： 豊かな人間性の育成	3. 規範意識の醸成 4. 自尊感情の醸成 5. 心の居場所となる学級づくり 6. 道徳教育・特別活動の充実 8. 人権尊重を重視した情報モラルの向上 9. 保育園・幼稚園・こども園との接続ならに中学校との連携	心をみがく	④児童に関する課題を共有し、全職員でルール of 徹底とマナーの育成に取り組む	「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることの意味を理解させた 児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた
			⑤自己の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる	教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた
			⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる	思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた
			多様な考え方や感じ方に触れさせ、道徳性を養う	他者と交流させることで、児童に道徳的課題を自分自身の問題として捉えて考えるように、指導することができた
		人権尊重の考えに基づき、情報モラルを向上させる	自他の人権を守るために、正しく情報機器を利用することの必要性を児童や家庭に指導することができた	
体： たくましい心身の育成		仲間とみがく	⑦話し合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす	自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた
			⑧集団でのかかわりの場を通して社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する	ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた 委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた
			⑨「体づくり運動」の充実と、体力・運動能力向上の取組をすすめる	体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた 外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた

## R2年度末 教職員アンケート

分類	番号	全教職員 項目	できた	おおむね できた	少しで きた	できて いない	積極的意見	消極的意見
			%	%	%	%	%	%
学 習	1-①	朝の学習の定着	45	25	30	0	70	30
	1-②	適切な時間での家庭学習の必要性の涵養	20	60	15	5	80	20
	1-③	論理的思考を育成するための書くことの指導	27	41	32	0	68	32
	1-④	学習内容の定着	30	35	35	0	65	35
	1-⑤	考えや思いの表現のための活動設定	13	48	39	0	61	39
		外国語活動の推進	26	47	26	0	74	26
		読書習慣の確立	20	65	15	0	85	15
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守の指導	25	58	17	0	83	17
		生徒指導や特別支援等の積極的な情報共有	29	50	21	0	79	21
	2-②	丁寧な言葉遣いの指導	42	42	17	0	83	17
		児童の自己成長確認の場の設定	25	50	25	0	75	25
	2-④	年下への思いやりの醸成	33	46	17	4	79	21
		他者との交流による道徳性の涵養	42	42	17	0	83	17
		情報モラルの教育・啓発	13	52	35	0	65	35
仲 間 ・ 健 康	3-①	話し合い活動活性化による建設的な意見の誘発	15	50	35	0	65	35
	3-②	協調性育成のための話し合い活動の設定	38	21	25	0	58	25
	3-③	協働活動を通じての自己有用感の醸成	13	57	30	0	70	30
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感の醸成	25	46	29	0	71	29
	3-⑤	授業中の運動量の確保	40	50	10	0	90	10
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	18	41	41	0	59	41
	3-⑦	外遊びの習慣化	19	57	24	0	76	24

積極的意見の割合が90～100  
 積極的意見意見の割合が80以上  
 消極的意見の割合が30以上  
 消極的意見の割合が20～30



## 教職員アンケートの考察

・今回のアンケートで、教員の積極的意見の割合が高かった項目は、「授業中の運動量の確保」であり、90%の教員が肯定的に評価している。また、比較的積極的意見の割合が高かった項目は「適切な時間での家庭学習の必要性の涵養」「読書習慣の確立」「きまりや約束、規則の順守の指導」「丁寧な言葉遣いの指導」「他者との交流による道徳性の涵養」の3つであり、80%以上の教員が肯定的に評価している。

・消極的意見が高い割合だった項目は、「論理的思考を育成するための書くことの指導」「学習内容の定着」「考えや思いの表現のための活動設定」「情報モラルの教育・啓発」「話し合い活動活性化による建設的な意見の誘発」「たてわり活動における運動習慣の醸成」の6項目であり、教員自身が取組に改善の余地があると感じている項目と思われる。中でも「考えや思いの表現のための活動設定」「たてわり活動における運動習慣の醸成」は消極的意見の割合が高く、次年度、改善点はどこにあるのかといったことを常に考えながら取組を展開していきたいと思う。

### R2年度 教職員積極的意見の割合の経過比較

分類	番号	全教職員 項目	積極的意見		消極的意見	
			年度末(%)	中間(%)	年度末(%)	中間(%)
学習	1-①	朝の学習の定着	70	90	30	10
	1-②	適切な時間での家庭学習の必要性の涵養	80	80	20	20
	1-③	論理的思考を育成するための書くことの指導	68	63	32	37
	1-④	学習内容の定着	65	68	35	32
	1-⑤	考えや思いの表現のための活動設定	61	50	39	50
		外国語活動の推進	74	70	26	30
		読書習慣の確立	85	76	15	24
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守の指導	83	79	17	21
		生徒指導や特別支援等の積極的な情報共有	79	83	21	17
	2-②	丁寧な言葉遣いの指導	83	83	17	17
		児童の自己成長確認の場の設定	75		25	
	2-④	年下への思いやりの醸成	79		21	
		他者との交流による道徳性の涵養	83	73	17	27
		情報モラルの教育・啓発	65	50	35	50
仲間・健康	3-①	話し合い活動活性化による建設的な意見の誘発	65	55	35	45
	3-②	協調性育成のための話し合い活動の設定	58	75	25	8
	3-③	協働活動を通じての自己有用感の醸成	70		30	
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感の醸成	71	75	29	25
	3-⑤	授業中の運動量の確保	90	63	10	37
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	59		41	
	3-⑦	外遊びの習慣化	76	33	24	67

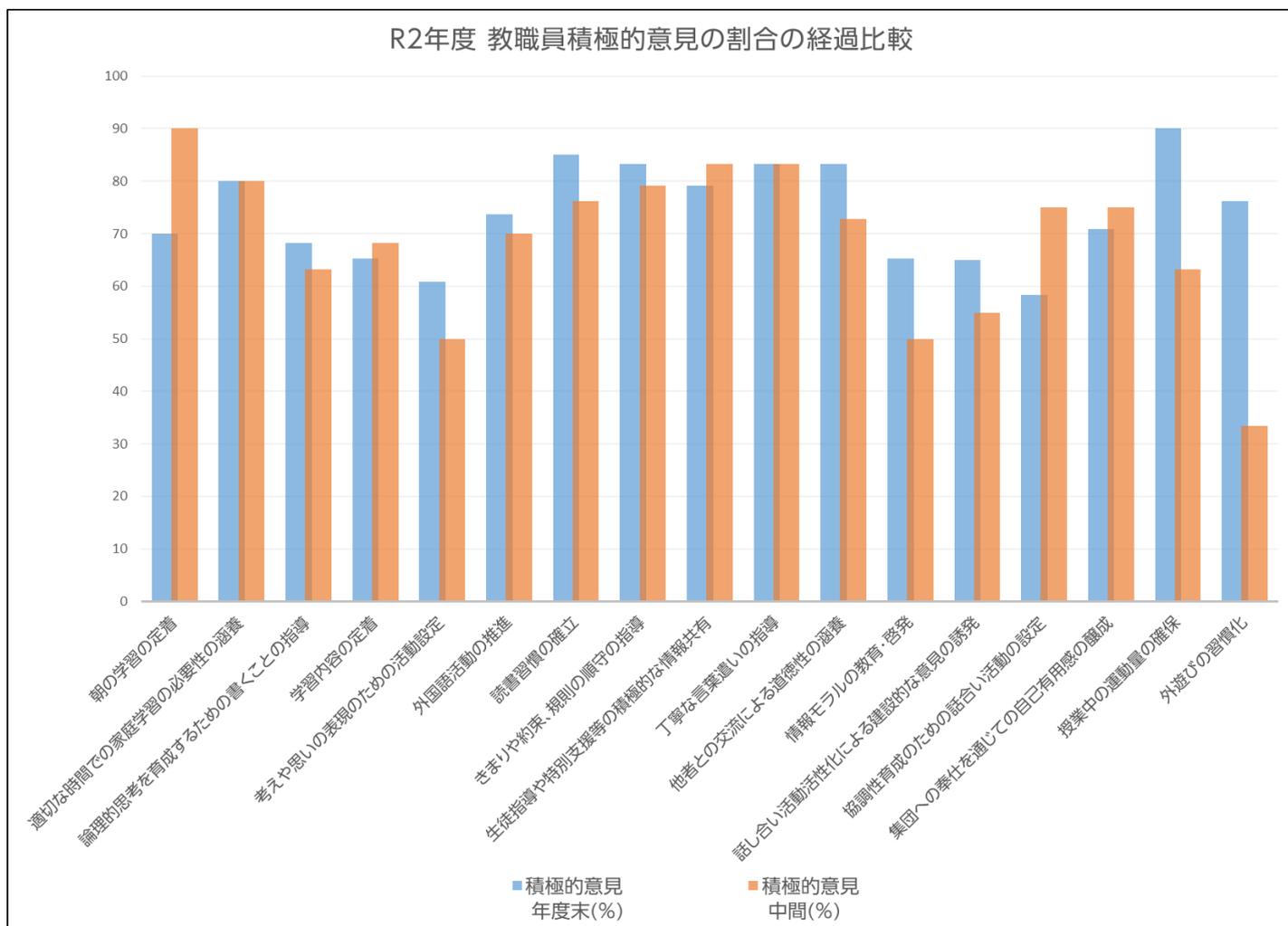
積極的意見の割合が90～100

積極的意見意見の割合が80以上

消極的意見の割合が30以上

消極的意見の割合が20～30

・児童、保護者と比べると、全体的に取組に対しての積極的意見の割合が少なく肯定的に捉える項目が少ない。中間期と経過比較すると、ほとんどの項目で積極的意見の割合は上昇し、中間期のアンケート結果を踏まえて取組の改善を試みたと思われる。しかし、「朝の学習の定着」「学習内容の定着」「生徒指導や特別支援等の積極的な情報共有」「協調性育成のための話し合い活動の設定」「集団への奉仕を通じての自己有用感の醸成」については、中間期と比べて積極的意見の割合が減少しており、今後の課題としていきたい。



# 令和2年度 保護者アンケート

家でのお子さんの様子や学校についてお答えください。当てはまる番号に○をつけてください。

	評価の視点	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	
学習	1-①	お子さんは、朝の学習を通じて基礎学力を定着させていますか。	4	3	2	1
	1-②	お子さんは、「自主学習のてびき」で示した学年毎の目安の時間、家庭学習をしていますか。	4	3	2	1
	1-③	お子さんは、学習して分かったことや自分の考えを、ノートやプリントに書いていましたか。	4	3	2	1
	1-④	お子さんは、学校での学習内容を概ね理解できていますか。	4	3	2	1
	1-⑤	お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言えるようになってきましたか。	4	3	2	1
	1-⑥	お子さんは、英語を使ってみたり、外国の文化に興味を持ったりするようになりましたか。	4	3	2	1
	1-⑦	お子さんは、家で読書をしていますか。	4	3	2	1
生活	2-①	お子さんは、家でのきまりや交通ルール、友達との約束を守ることができていますか。	4	3	2	1
	2-②	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか。	4	3	2	1
	2-③	お子さんは、違う学年の子とも仲良くしていますか。	4	3	2	1
	2-④	お子さんは、年下の子を大切にしようとしていますか。	4	3	2	1
	2-⑤	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して気持ちのよい挨拶をしていますか。	4	3	2	1

お子さんの学年（        ）年

仲間・健康	3-①	お子さんは、人の意見をよく聞いてから自分の意見を言おうとしていますか。	4	3	2	1
	3-②	お子さんは、たてわり活動を通じて異学年の児童との関わりを深め、協調性を身に付けていますか。	4	3	2	1
	3-③	お子さんは、委員会活動を通じて、自分が人の役に立っていることを認識していますか。	4	3	2	1
	3-④	お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は、お子さんが楽しい学校生活を送ることができるように配慮していますか。	4	3	2	1
	4-②	学校は、お子さんの心に残るような学習や行事などの教育活動を実践していますか。	4	3	2	1
	4-③	学校は、様々な体験を通してお子さんに生きる力を身に付けていますか。	4	3	2	1
	4-④	学校は、外部人材を招いて体験活動を取り入れた学習を進めるなど、地域の教育力を生かした教育が行っていますか。	4	3	2	1
	4-⑤	学校は、教育方針や教育活動を分かりやすく伝え、家庭と連携を図ろうとしていますか。	4	3	2	1

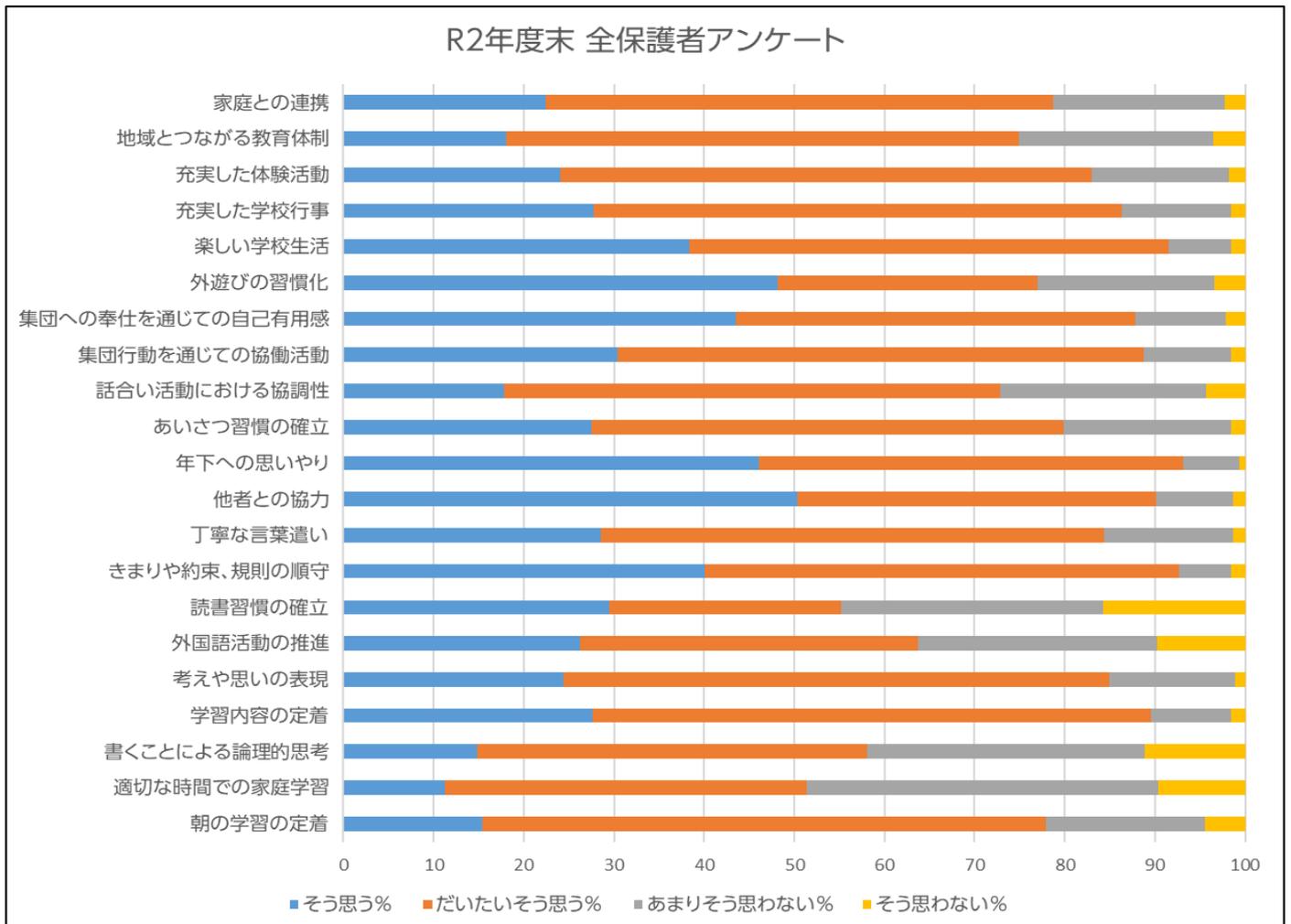


ご意見等があれば、お書きください。

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

## R2年度末 全保護者アンケート

全保護者			そう思う%	だいたいそ う思う%	あまりそ う思わない%	そう思わ ない%
分類	番号	項目				
学 習	1-①	朝の学習の定着	15	63	18	4
	1-②	適切な時間での家庭学習	11	40	39	10
	1-③	書くことによる論理的思考	15	43	31	11
	1-④	学習内容の定着	28	62	9	2
	1-⑤	考えや思いの表現	24	61	14	1
	1-⑥	外国語活動の推進	26	37	26	10
	1-⑦	読書習慣の確立	30	26	29	16
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守	40	53	6	2
	2-②	丁寧な言葉遣い	29	56	14	1
	2-③	他者との協力	50	40	8	1
	2-④	年下への思いやり	46	47	6	1
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	27	52	19	2
健 仲 康 問	3-①	話し合い活動における協調性	18	55	23	4
	3-②	集団行動を通じての協働活動	30	58	10	2
	3-③	集団への奉仕を通じての自己有用感	44	44	10	2
	3-④	外遊びの習慣化	48	29	20	3
学 校	4-①	楽しい学校生活	38	53	7	2
	4-②	充実した学校行事	28	59	12	2
	4-③	充実した体験活動	24	59	15	2
	4-④	地域とつながる教育体制	18	57	22	3
	4-⑤	家庭との連携	22	56	19	2



## 保護者アンケートの考察

・今回の保護者アンケートで肯定的意見が高い割合だった項目は、「きまりや約束、規則の順守」「他者との協力」「年下への思いやり」「楽しい学校生活」の4項目で、いずれも90%以上の保護者が肯定的な評価をしており、これらの項目については、今年度、達成が図られたと考えられる。次いで、肯定的意見が80%以上だった項目は、「学習内容の定着」「考えや思いの表現」「丁寧な言葉遣い」「あいさつ習慣の確立」「集団行動を通じての協働活動」「集団への奉仕を通じての自己有用感」「充実した学校行事」「充実した体験活動」の8項目である。これらの項目についても、ほぼ目標は達成されたものと思われる。「学習内容の定着」と「集団行動を通じての

全保護者			全校	全校
分類	番号	項目	肯定意見	否定意見
学習	1-①	朝の学習の定着	78	22
	1-②	適切な時間での家庭学習	51	49
	1-③	書くことによる論理的思考	58	42
	1-④	学習内容の定着	89	11
	1-⑤	考えや思いの表現	85	15
	1-⑥	外国語活動の推進	64	36
	1-⑦	読書習慣の確立	55	45
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	93	7
	2-②	丁寧な言葉遣い	84	16
	2-③	他者との協力	90	10
	2-④	年下への思いやり	93	7
	2-⑤	あいさつ習慣の確立	80	20
健康仲間	3-①	話し合い活動における協調性	73	27
	3-②	集団行動を通じての協働活動	89	11
	3-③	集団への奉仕を通じての自己有用感	88	12
	3-④	外遊びの習慣化	77	23
学校	4-①	楽しい学校生活	92	8
	4-②	充実した学校行事	86	14
	4-③	充実した体験活動	83	17
	4-④	地域とつながる教育体制	75	25
	4-⑤	家庭との連携	79	21

肯定的意見の割合が90~100

肯定的意見の割合が80以上

否定的意見の割合が30以上

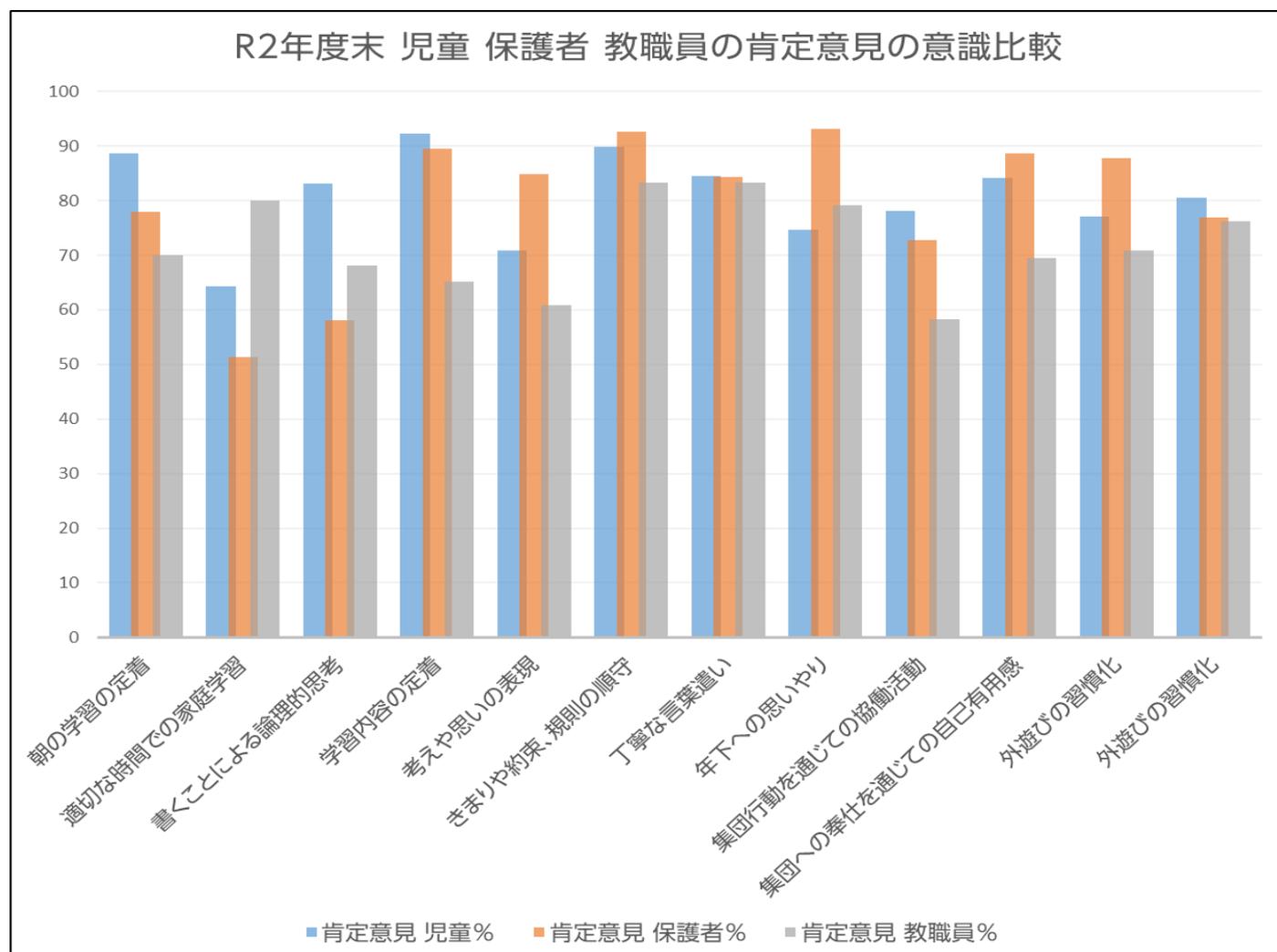
否定的意見の割合が20~30

協働活動」については、肯定的意見が89%であり、達成されたと考えてもよいのではないかとと思われる。分野別にみると、生活の分野はすべて高い評価であり、生徒指導をはじめとした教育活動について、高い評価をしてもらっていると思われる。また、仲間・健康や学校の分野は、肯定的意見が70パーセント台の項目があるものの、突出して肯定的意見の割合が低い項目はなく、ある一定の達成はできたのではないかと考える。特に、今年度はコロナ禍で学校行事や体験活動が制限されたり縮小されたりしたにもかかわらず、「充実した学校行事」「充実した体験活動」の項目において保護者の8割以上が肯定的な評価であったのは、学校行事や体験活動を工夫して実施したことを肯定的に受け止めてもらえたからだと思う。この評価を今後の励みにし、教育活動に邁進していきたい。学習分野では、「学習内容の定着」「考えや思いの表現」の項目が80%以上の肯定的評価であり、これらについてはほぼ達成されたと考える。「朝の学習の定着」については、肯定的意見が78%であり、目標は一定、達成されたとと思われる。しかし、自由記述に、「朝の学習で、何をしているのか分からない」といった意見があり、保護者に向けて朝の学習について情報を発信していく必要があると感じた。次年度への課題としたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習」「書くことによる論理的思考」「外国語活動の推進」「読書習慣の確立」の4項目であった。特に、「適切な時間での家庭学習」については、ほ

ば半数の保護者が否定的な評価をしており、喫緊の課題と捉える。今後、子ども達が自主学習に進んで取り組めるような仕組みの整備を進めていくことが必要であると考え。また、新学習指導要領で示された学力の3要素の一つである「学びに向かう力」の育成には、自主学習をはじめとした家庭学習の習慣化が大きく寄与しているという事を保護者に伝え、協力を仰いでいきたい。ノートやプリントに考えを書いているかを尋ねた「書くことによる論理的思考」については、42%の保護者が否定的な評価をしている。今年度、本校では昨年度のアンケートより児童に書くことの課題があることを踏まえ、書くことの指導を工夫することで道徳性を養う道徳科の充実を図った。そのため子ども達は、道徳の時間にプリントやワークシートへ自分の考えをよく書いているが、今後は他の教科でも考えや思いを書くということを増やしていかなければならないと考える。「外国語活動の推進」は、36%の保護者が否定的な評価をしている。今年度も外国語活動の時間は、ALT やわくわくイングリッシュサポーターを活用しながら進めてきたが、同じ項目について、教員は肯定的意見が10ポイント高く、保護者との認識に乖離が見られた。今後、英語や外国語活動の学習の様子を情報発信したり、参観してもらったりしていくことも必要ではないかと考える。「読書習慣の確立」は、45%の保護者が否定的な評価をしている。同じ項目について教員は、否定的意見が15%であり、保護者との認識に乖離が見られた。学校では図書時間に学校司書が読み聞かせをしたり、図書室に本を借りに行ったりして子ども達が図書とふれあう機会を意図的に創り出しているため、多くの教員が肯定的に評価をしているが、せっかく借りた本を家庭で読んでいないか、読んでもそのあと続けて読んでいないのではないかとと思われる。短い時間でもよいので、読書する習慣が身につくような働きかけを模索していきたいと考える。

## 児童・保護者・教職員の意識比較についての考察



・三者とも肯定意見が80パーセント以上の高評価であった項目は、「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」の2項目であり、これらの項目については、今年度の教育活動において概ね達成できたと考える。また、「他者との協力」「あいさつ習慣の確立」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」については三者にアンケート調査をしていないものの、他の二者が高評価をしている項目であり、これらの項目についても今年度の教育活動において概ね達成できたと思われる。

### R2年度末アンケート児童・保護者・教職員の意識比較

分類	番号	項目	肯定意見	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見	否定意見
			児童%	保護者%	教職員%	児童%	保護者%	教職員%
学習	1-①	朝の学習の定着	89	78	70	11	22	30
	1-②	適切な時間での家庭学習	64	51	80	36	49	20
	1-③	書くことによる論理的思考	83	58	68	17	42	32
	1-④	学習内容の定着	92	89	65	8	11	35
	1-⑤	考えや思いの表現	71	85	61	29	15	39
	1-⑥	外国語活動の推進		64	74		36	26
	1-⑦	読書習慣の確立		55	85		45	15
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	90	93	83	10	7	17
		生徒指導や特別支援等の積極的な情報共有			79			21
	2-②	丁寧な言葉遣い	84	84	83	16	16	17
		児童の自己成長確認の場の設定			75			25
	2-③	他者との協力	90	90		10	10	
	2-④	年下への思いやり	75	93	79	25	7	21
	2-⑤	正しい廊下歩行	74			26		
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	82	80		18	20	
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	81			19		
		他者との交流による道徳性の涵養			83			17
	情報モラルの教育・啓発			65			35	
仲間・健康	3-①	話し合い活動における協調性	63		65	37		35
	3-②	集団行動を通じての協働活動	78	73	58	22	27	25
	3-③	集団への奉仕を通じての自己有用感	84	89	70	16	11	30
	3-④	外遊びの習慣化	77	88	71	23	12	29
	3-⑤	授業中の運動量の確保	94		90	6		10
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	91		59	9		41
	3-⑦	外遊びの習慣化	81	77	76	19	23	24
学校	4-①	楽しい学校生活	87	92		13	8	
	4-②	充実した学校行事		86			14	
	4-③	充実した体験活動		83			17	
	4-④	地域とつながる教育体制		75			25	
	4-⑤	家庭との連携		79			21	
	4-⑥	自己有用感の確立	66			34		
	4-⑦	他者への思いやり	84			16		
	4-⑧	素直な態度	85			15		

- 肯定的意見の割合が90~100
- 肯定的意見の割合が80以上
- 否定的意見の割合が30以上
- 否定的意見の割合が20~30

・児童・保護者と教職員で意識に大きな乖離が見られた項目は、「適切な時間での家庭学習」「学習内容の定着」「集団への奉仕を通じての自己有用感」であり、「適切な時間での家庭学習」については、教職員は高い自己評価をしているものの、児童・保護者は低い評価であり、今後、見直しを図らなければならない項目であると考え。「学習内容の定着」「集団への奉仕を通じての自己有用感」については、教職員は低い自己評価であるが、児童・保護者は高い評価をしている項目である。言い換えれば、児童・保護者の満足度は担保されている項目であり、急いで改善が必要な項目ではないと思われる。しかし、教員が取組に改善の余地があると考えている項目であり、今後、改善点は何か、どこにあるのか、といったことを常に考えながら教育活動を展開していきたいと考える。

・二者、もしくは三者ともが低い評価であった「適切な時間での家庭学習」「書くことによる論理的思考」「話し合い活動における協調性」の項目については、今後の教育活動において改善が必要な項目であり、改善点を探ったうえで次年度への課題として重点的に教育活動を展開していくべきであると考え。

・学校の分野の項目は、児童と保護者に調査したものであり、「自己有用感の確立」の項目以外のそれぞれの項目については、達成、もしくは概ね達成できたと思われる。今後は、児童が、「自分は、人の役にたっていると思う。」と自分のことを認め、誇らしく思えるような教育活動は何か、ということを中心に問い続けながら教育活動を展開していきたい。